

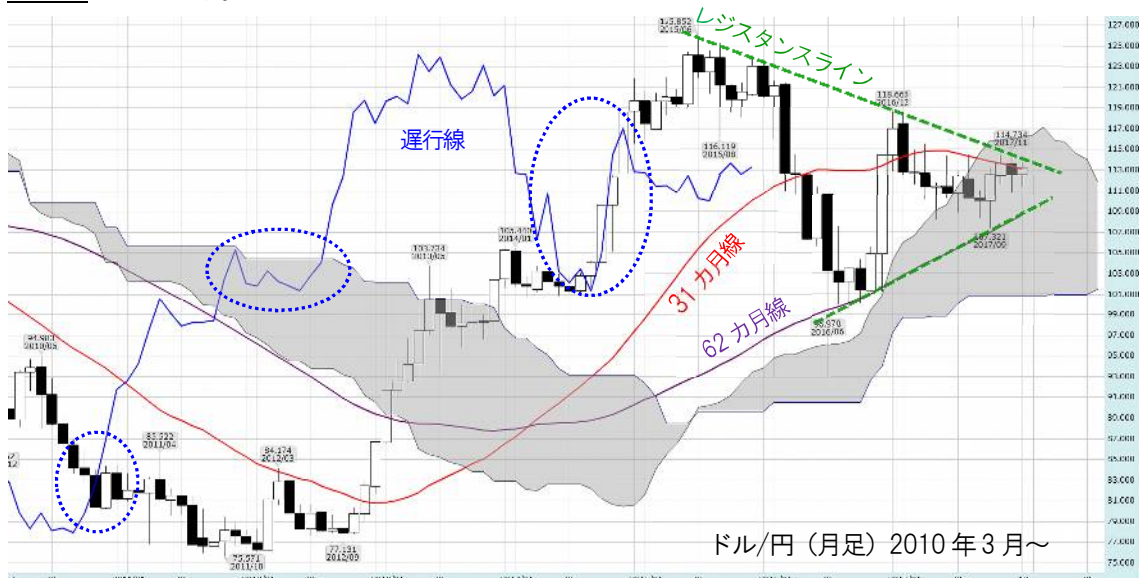
■ 年明け以降にドル/円の上値余地が広がる可能性は？

2017年のレポート更新も今回で締めくくり。振り返れば、今年は年初から長らくドル/円の月足がクリアに31カ月線を上抜けることはなかった（下図参照）。

ただ、この12月は月足・終値が31カ月線（現在は113.06円）より上方に位置することとなる可能性が大であると言える。振り返れば、31カ月線は過去に幾度も重要な局面で大きな役割を演じてきており、この12月の月足ロウソクとのかかわり方も見逃せない。

同じように月足の「遅行線」というのも、過去になかなか重要な役割を要所・要所で担ってきた（参考：下図中・青点線楕円）。そんな月足の「遅行線」が、来年3月いっぱいくらいまでに月足ロウソクの位置するところを下から上に再び突き抜ける可能性が浮上してきているというから、これは注目しないわけには行かない。

今後、ドル/円の月足が終値で31カ月線をクリアに上抜け、さらに115円の節目や一目均衡表の月足「雲」上限を上抜けるような展開となれば、いずれ月足の「遅行線」も月足ロウソクの位置するところを上抜ける展開となり、少し長い目でドル/円の上値余地が大きく広がる可能性もあるといえよう。



また、足下では2015年6月高値からそれ以降の目立った高値を結ぶレジスタンスライン（図中・緑点線）をドル/円が上抜ける可能性も浮上してきている。

図中でも確認できるように、このラインは2016年6月安値と今年9月安値を結ぶサポートラインとで形成される三角保ち合い（トライアングル）の上辺にもあたるもので、このトライアングルは今まさにどんどん煮詰まってきた。

つまり近い将来、トライアングルから上にあるいは下に放れる可能性が高いと見られ、どちらかと言えば上放れる可能性の方が高いと現状では考えられる。それは、すなわち2015年5月高値からの調整がようやく終了したとの感触をもたらすものとなり、そこから新たに強気の展開がスタートする可能性が高いと個人的には見ている。

周知のとおり、ドル/円は今年の3月下旬あたりから大よそ108-114円の値幅でフラット型の保ち合いレンジを形成してきたとも言える。保ち合いレンジをも上放れることとなれば、もはや上値の抵抗は前述した月足「雲」上限ぐらいとなる。

その前に、まずは11月6日高値の114.73円を攻略したい。思えば、9月安値からこの11月6日高値までの上げ幅に対する「半値押し」が11月27日安値（110.84円）である。結果、同水準で下げ止まって反発したわけで、そのこと自体が「いずれこれまでのレンジ相場から抜け出そうとする」ということを暗示しているのではないかと思われる。（12月28日 10:10）